## 人文知応援フォーラム夏期学校 倉敷で開幕

# 美術館を次世代に

## 原田マハさん講演、対談

「人文知の発信拠点の美術館でアートとの直接対話を」と呼び掛ける原田さん

文化や芸術、人文学を通じて生まれる知の力「人文知」の進展を目指す一般社団法人「人文知応援フォーラム」（代表理事・大原謙一郎大原美術館名誉館長）が主催する初の夏期学校が27日、2日間の日程で会員を対象に倉敷市で開幕。初日は一般参加できる公開講座が倉敷公民館（同市本町）であり、岡山市ゆかりの作家原田マハさんが講演した。

演題は「人文知は美術館にある－美術館のある街の活動を未来へ」で、約150人が聴講。原田さんは10歳の時に大原美術館（倉敷市中央）を見学した際に「名画を前にめくるめく感動を覚えた」と振り返り、美術館について「コロナ禍でリモートが進んだが、地域をより良くするためにも美術館に訪れ、アートとの対話を楽しみ、人文知を広げてほしい」と呼び掛けた。

大原名誉館長との対談もあり、原田さんは「美術館は私たちのもの。一人一人が参画し、次世代にバトンを渡すことが大切だ」と強調。大原氏は「大原美術館は『みんなのマイミュージアム』を掲げている。強いメッセージとして受け止めたい」と応じた。

同フォーラムは2019年に大原氏の呼び掛けで学識者や財界人で発足。夏期学校は「人文知」への理解を深めるのが狙いで定期開催する。今回は2日間、文化や芸術に触れながら学んだり、語り合ったりする。

（山内悠記子）

20XX・8・XX 山陽